

2008年度 決算データ

富士フイルム ホールディングス株式会社
2009年4月30日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

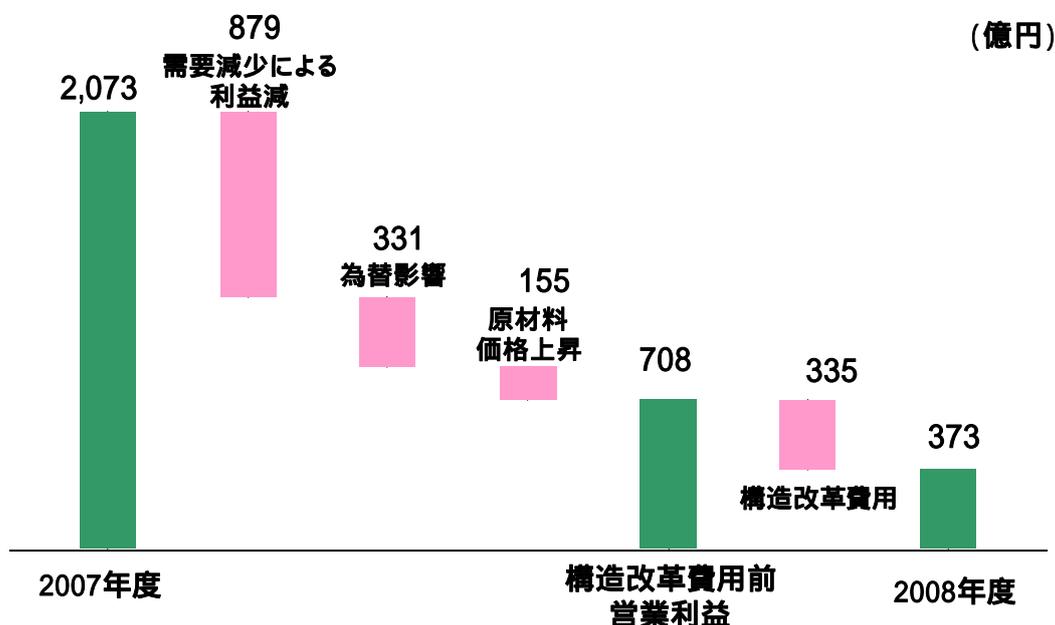
2008年度連結業績

第3四半期以降の急激な事業環境悪化と為替円高進行により、大幅減益

(単位:億円)

	2007年度		2008年度		増減		(参考)2008年度 業績予想(1/30)	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	28,468	100.0%	24,343	100.0%	-4,125	-14.5	24,300	100.0%
構造改革費用前 営業利益	2,403	8.5%	708	2.9%	-1,695	-70.6	550	2.3%
構造改革費用	330		335		+5	-	250	
構造改革費用後 営業利益	2,073	7.3%	373	1.5%	-1,700	-82.0	300	1.2%
税金等調整前 当期純利益	1,993	7.0%	94	0.4%	-1,899	-95.3	10	0.0%
当期純利益	1,044	3.7%	105	0.4%	-939	-89.9	100	0.4%
1株当たり 当期純利益	205.43円		21.10円		-184.33円		20.47円	
1株当たり配当金	35円		30円(予定)		-5円		-	
為替 :米ドル	115円		101円		-14円		100円	
:ユーロ	162円		145円		-17円		142円	

■ 2008年度利益増減要因(対2007年度)



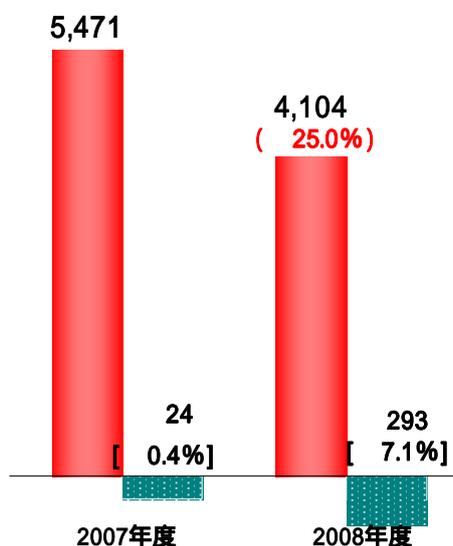
事業別セグメント情報

■ イメージング ソリューション

売上高・営業利益

■ 売上高
■ 営業利益

単位: 億円
[]: 営業利益率
(): 前年比



売上高

4,104億円(前年比 25.0%減)

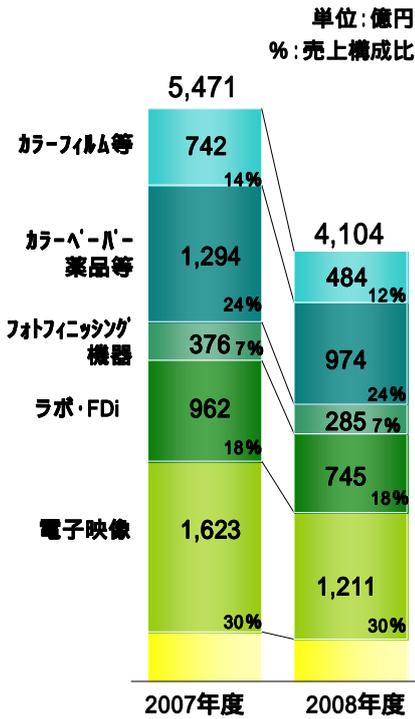
- カラーフィルムやカラーペーパーの市場縮小とデジタルカメラの競争激化など製品全般の売上が減少
- 為替円高影響 464億円

営業利益

293億円(前年比 赤字拡大)

- 為替円高影響に加え、デジタルカメラの価格下落により、赤字拡大。

サブセグメント売上高



カラーフィルム等 484億円 (前年比: 35%減)

- 市場縮小による売上減少が継続。

カラーペーパー・薬品等 974億円 (前年比: 25%減)

- フォトブックやオンラインフォトサービスなどの付加価値プリントの販売促進施策を展開。

フォトフィニッシング機器 285億円 (前年比: 24%減)

- インクジェットドライミラボの販売はワールドワイドで着実に増加。

電子映像 1,211億円 (前年比: 25%減)

- 2008年度のデジタルカメラ販売台数は、ワールドワイドで820万台。
- 新開発CCD「Super CCD ハニカムEXR」搭載のFinePix F200EXRの販売開始。

■ インフォメーション ソリューション

売上高・営業利益

■ 売上高
■ 営業利益

単位: 億円

□: 営業利益率

(): 前年比

売上高

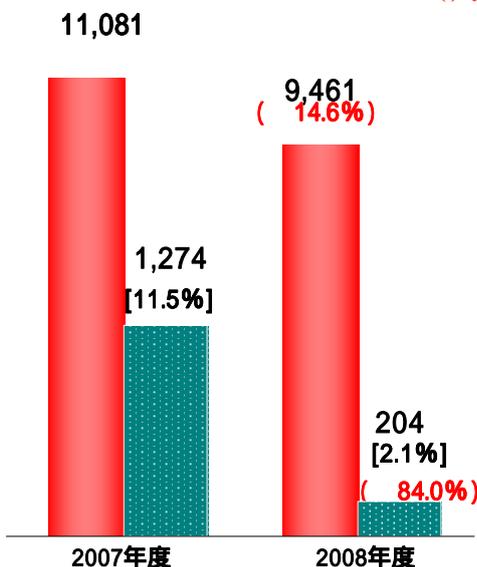
9,461億円 (前年比 14.6%減)

- パネル業界の急激な在庫調整等によりフラットパネルディスプレイ材料を中心に主要製品の売上が減少。
- 為替円高影響 (628億円)

営業利益

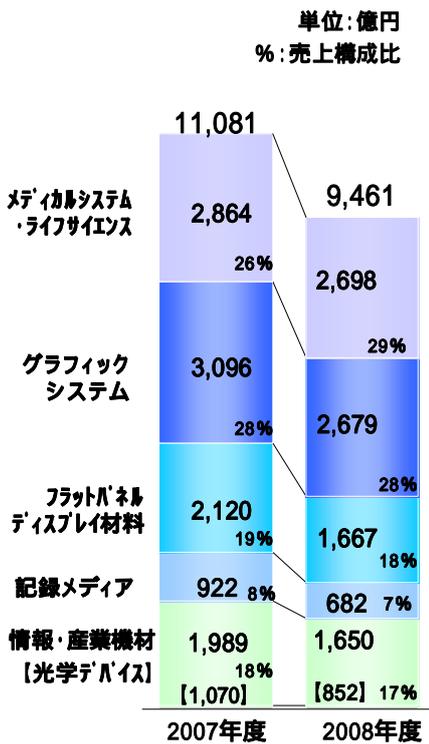
204億円 (前年比 84.0%減)

- 世界的な需要減少による主要製品の販売数量の減少により大幅減益。



*セグメント間取引消去後

サブセグメント売上高



メディカルシステム・ライフサイエンス

2,698億円 (前年比: 6%減)

- 国内での診療報酬改定及び世界的な景気悪化影響を受け、売上が減少。
- 医用画像情報ネットワークシステムの売上は順調に増加。
- 内視鏡事業では、子会社のフジノ(株)から富士フィルム(株)への事業統合及び国内販売子会社の再編を実施、内視鏡事業拡大の基盤を強化。

グラフィックシステム

2,679億円 (前年比: 14%減)

- 景気後退の影響により印刷需要が減少し、印刷材料全般の売上が減少。
- 既存材料分野での競争力強化を図り、ローケミストリー簡易処理タイプのバイオレットフォトポリマーCTPプレートの販売を欧州で開始

フラットパネルディスプレイ材料

1,667億円 (前年比: 21%減)

- パネルメーカーの大幅な生産調整の影響で、第3四半期以降の売上が急落するが、12月を底に第4四半期は受注回復基調。

記録メディア

682億円 (前年比: 26%減)

- 主力のデータメディアの最大の市場である米国市場の需要減少等により販売が低迷。

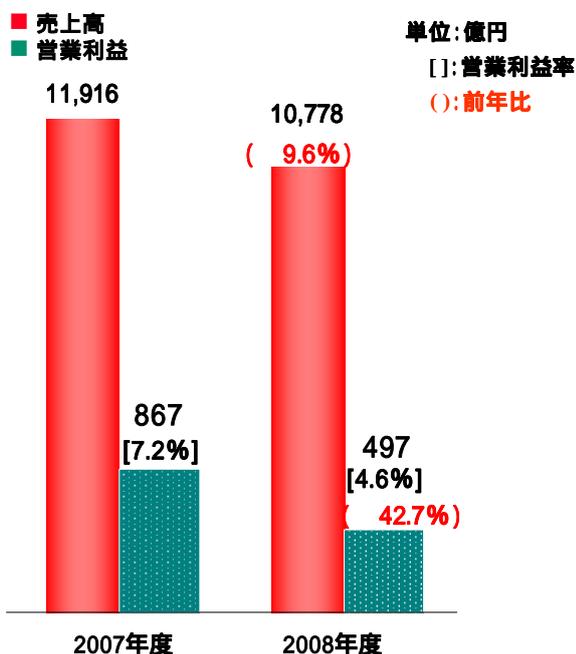
情報・産業機材

1,650億円 (前年比: 17%減)

- 光学デバイス分野で、11月以降のカメラ付き携帯電話用レンズユニットの受注が減少、4月以降回復の見込み。

ドキュメントソリューション

売上高・営業利益



売上高

10,778億円 (前年比 9.6%減)

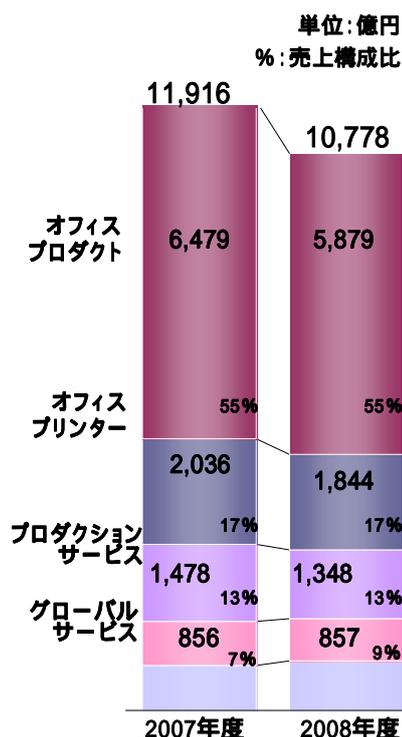
- 世界的な需要減少による販売の減少、急激な為替変動によるマイナスインパクト等により減少。
- 為替円高影響 (466億円)

営業利益

497億円 (前年比 42.7%減)

- 原価改善や販売費及び一般管理費の削減に取り組んだが、売上の減少を補いきれず減益

サブセグメント売上高



オフィスプロダクト 5,879億円 (前年比: 10%減)

- 国内は、需要減と企業の設備投資抑制、経費削減等により、アジア・オセアニア地域では、円高や景気減速の影響により売上が減少。
- 米ゼロックス向け輸出は、チャンネル買収効果と、上期までの資源国及び新興国の需要増が寄与し、出荷台数が増加。

オフィスプリンター 1,844億円 (前年比: 10%減)

- 国内では、需要減により販売台数が減少。
- アジア・オセアニア地域、米ゼロックス向け輸出では、カラー機の販売台数が大幅に増加するも、円高の影響により売上高は減少。

プロダクションサービス 1,348億円 (前年比: 9%減)

- 国内、米ゼロックス向け輸出ともに、ライトプロダクションカラー市場向け商品の好調により、販売台数が増加。
- アジア・オセアニア地域では、需要減少と円高の影響により売上が減少。

グローバルサービス 857億円 (前年比: 横ばい)

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが国内外ともに好調に推移。

8

参考データ

2008年度第4四半期 連結業績

(単位: 億円)

	2007年度 第4四半期		2008年度 第4四半期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	7,095	100.0%	5,301	100.0%	-1,794	-25.3
営業利益*	294	4.1%	-453	-8.5%	-747	-
税金等調整前 四半期純利益	139	2.0%	-469	-8.8%	-608	-
四半期純利益	6	0.1%	-189	-3.6%	-195	-
1株当たり 四半期純利益	1.11円		-38.74円		-39.85円	
為替: 米ドル	106円		94円		-12円	
ユーロ	159円		124円		-35円	

■ <参考> 営業利益増減要因 (対07年度4Q):

(単位: 億円)

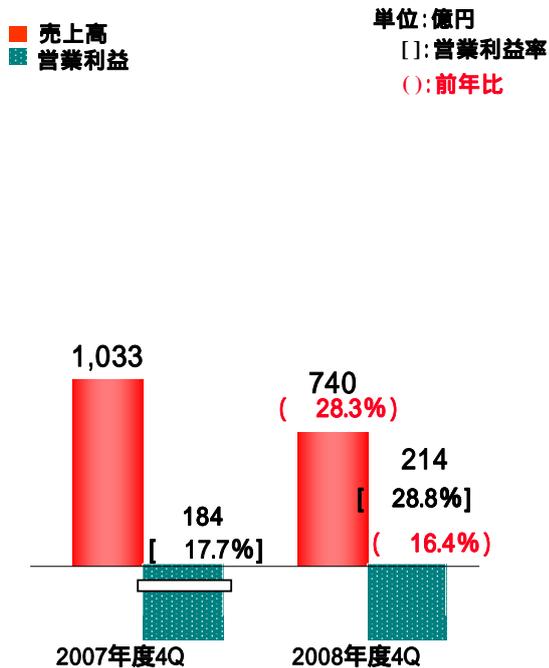
為替影響 121 原材料価格上昇 30 需要減少他 596

* 構造改革(含S & S)費用 07年度4Q 233億円、08年度4Q 265億円 を含む

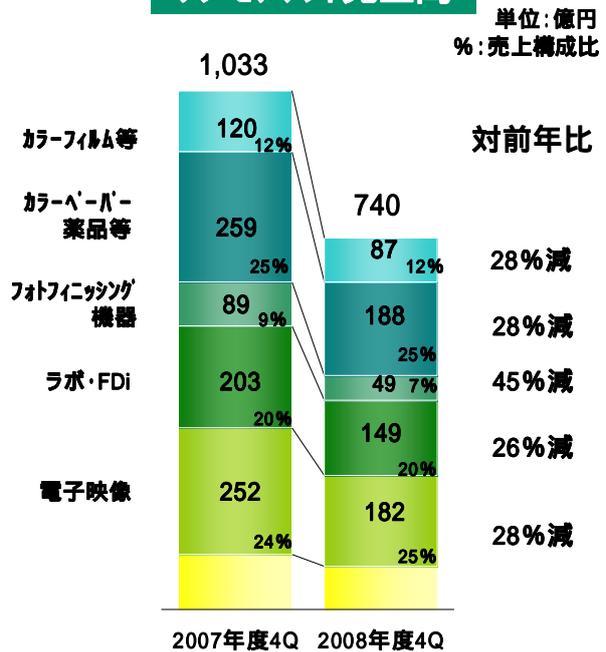
9

■ イメージング ソリューション 第4四半期

売上高・営業利益



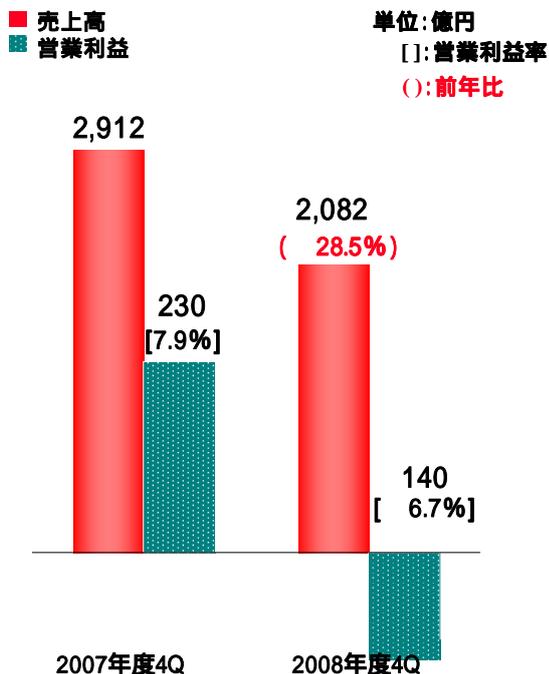
サブセグメント売上高



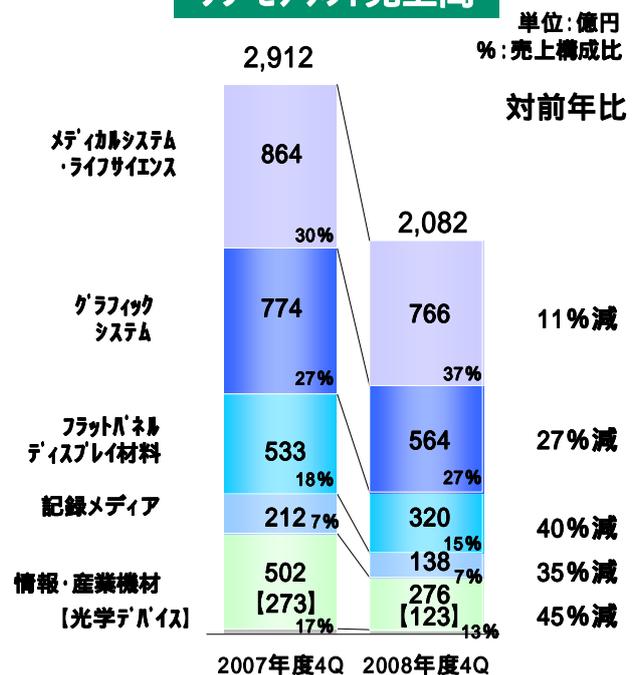
*セグメント間取引消去後

■ インフォメーション ソリューション 第4四半期

売上高・営業利益



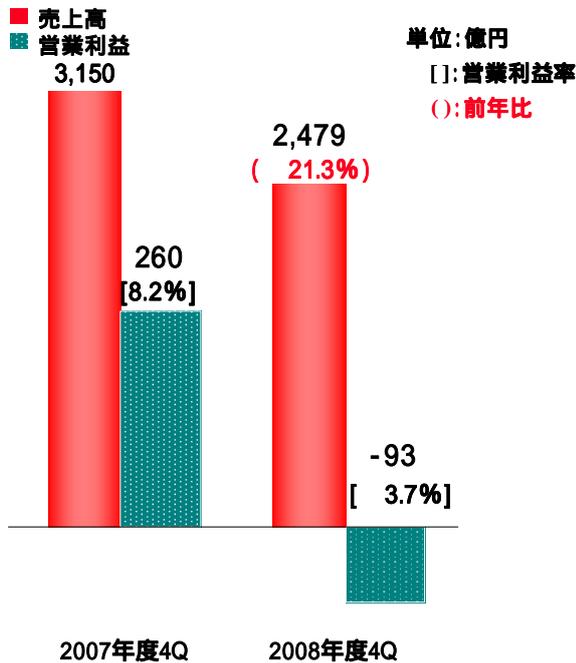
サブセグメント売上高



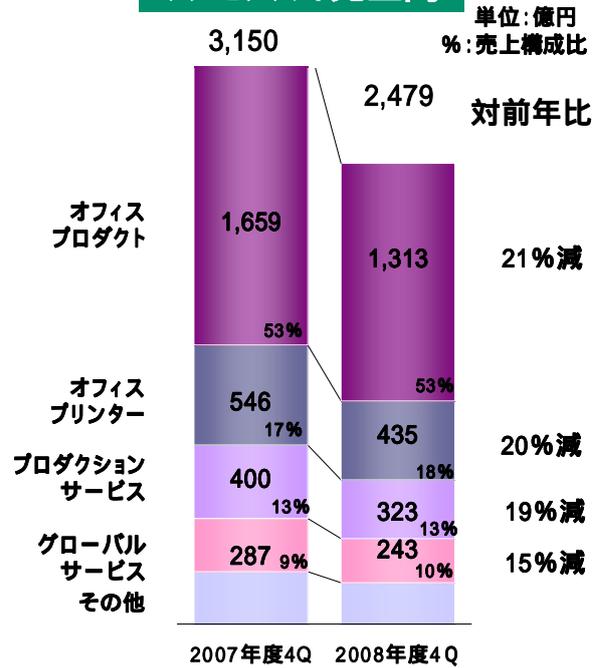
*セグメント間取引消去後

■ドキュメント ソリューション 第4四半期

売上高・営業利益



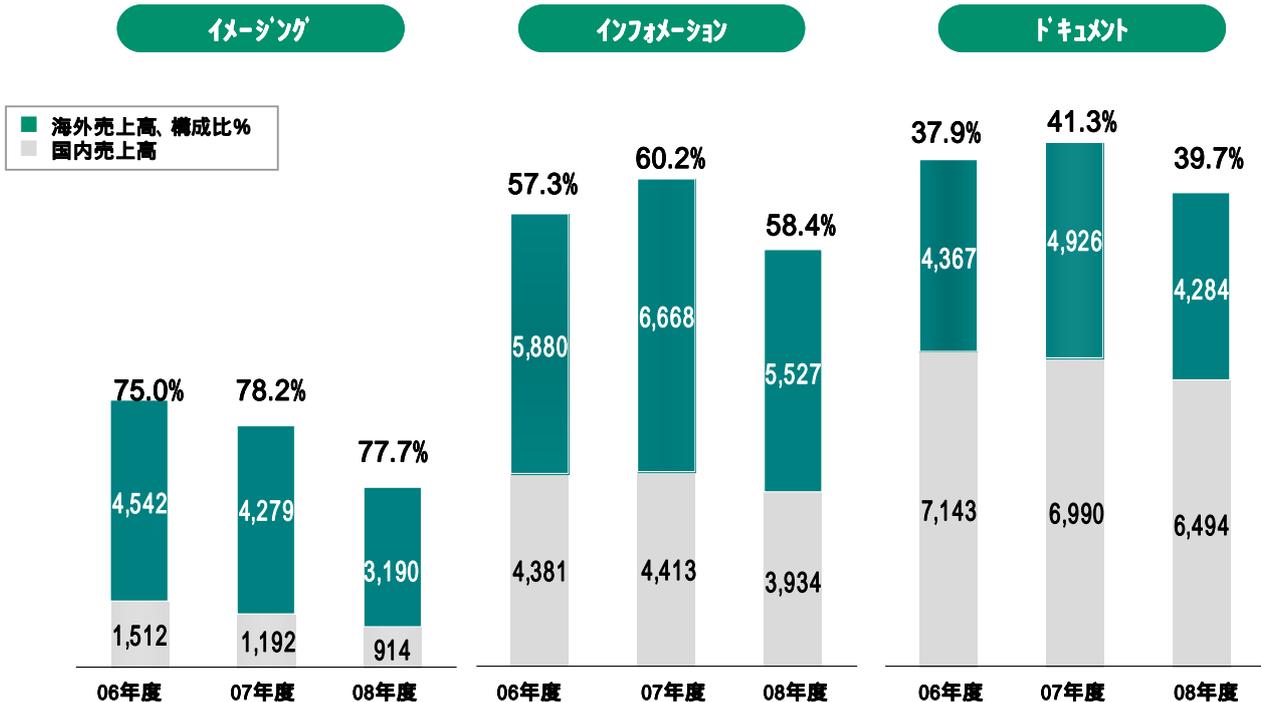
サブセグメント売上高



*セグメント間取引消去後

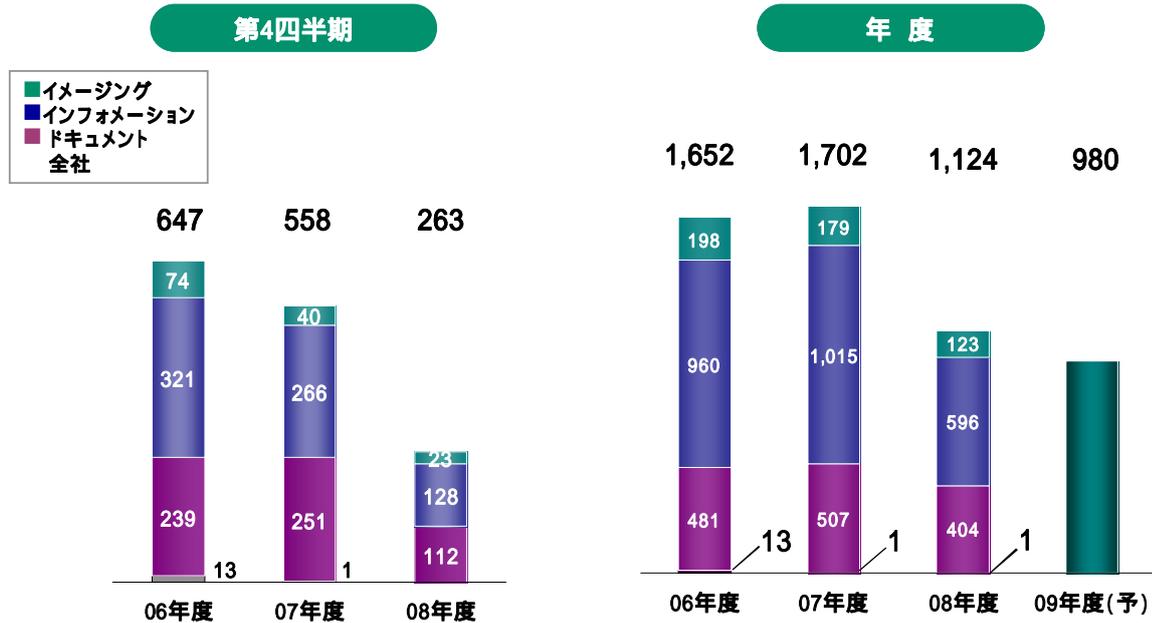
■海外売上高

(単位: 億円)



■ 有形固定資産の設備投資額

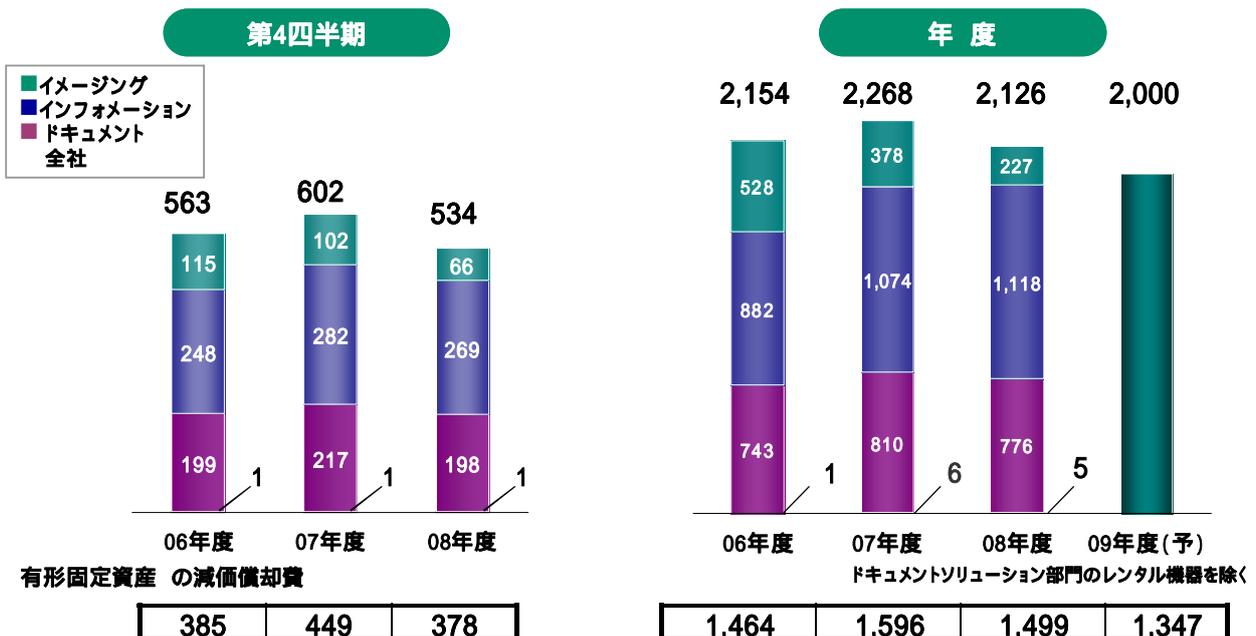
(単位: 億円)



ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

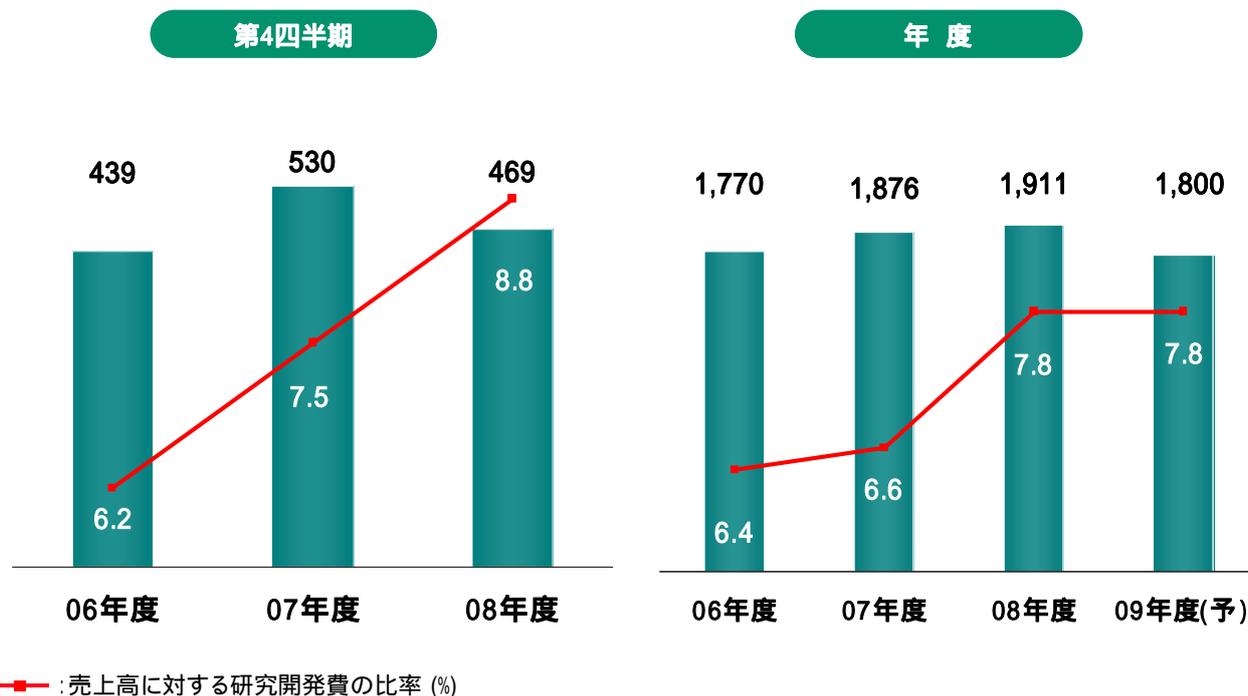
■ 減価償却費

(単位: 億円)



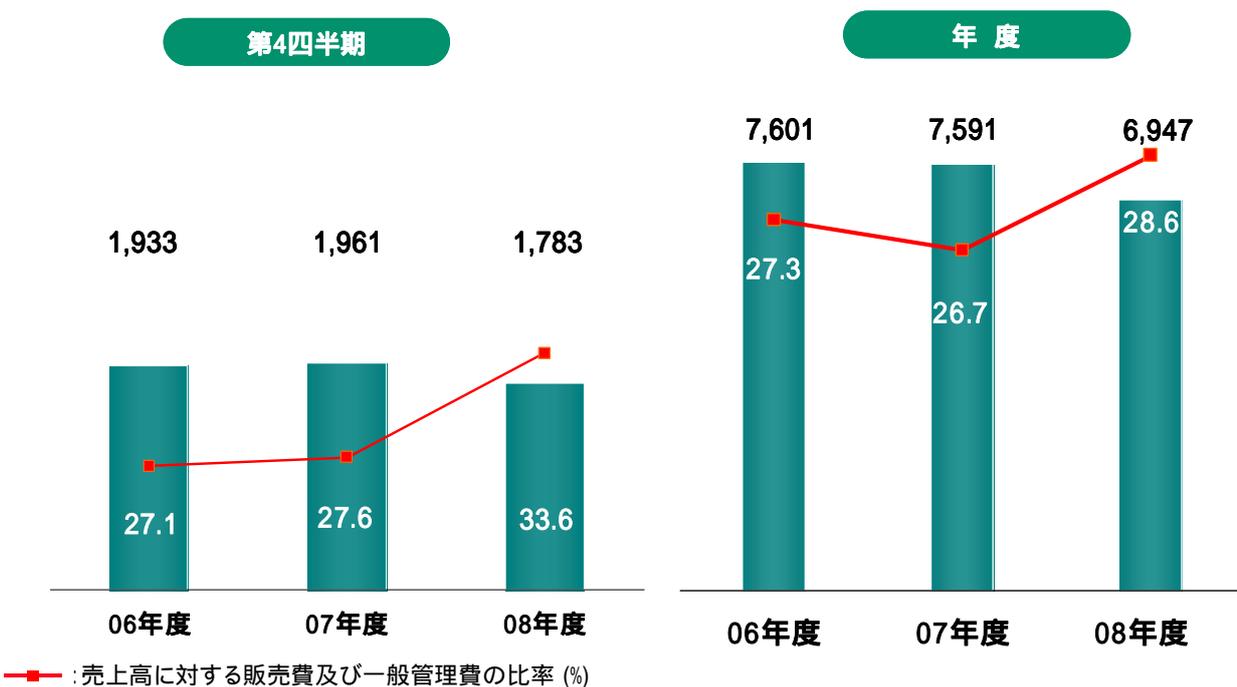
■ 研究開発費

(単位:億円)



■ 販売費及び一般管理費

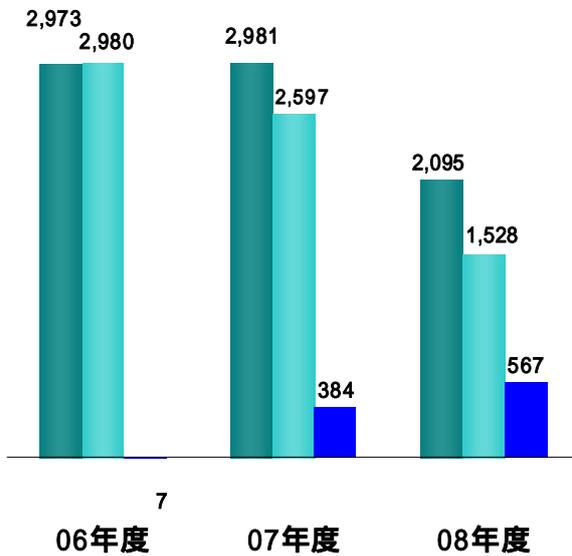
(単位:億円)



■ フリーキャッシュフロー

(単位:億円)

■ 営業活動CF
■ 投資活動CF
■ フリーキャッシュフロー

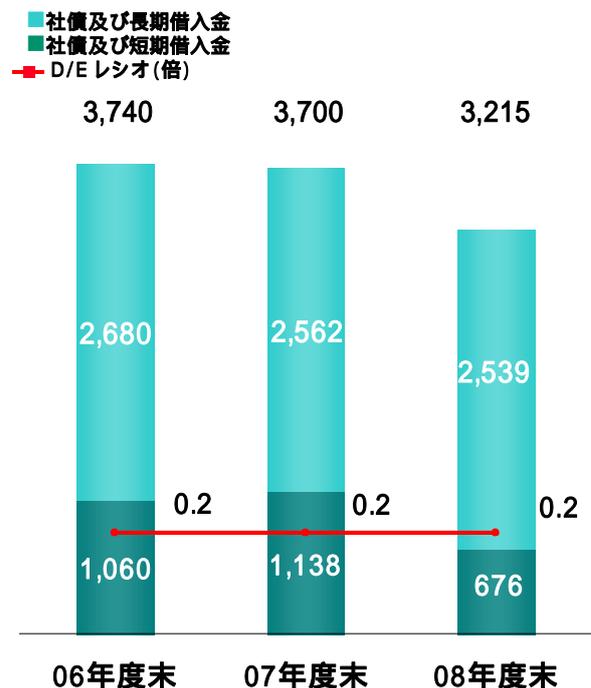
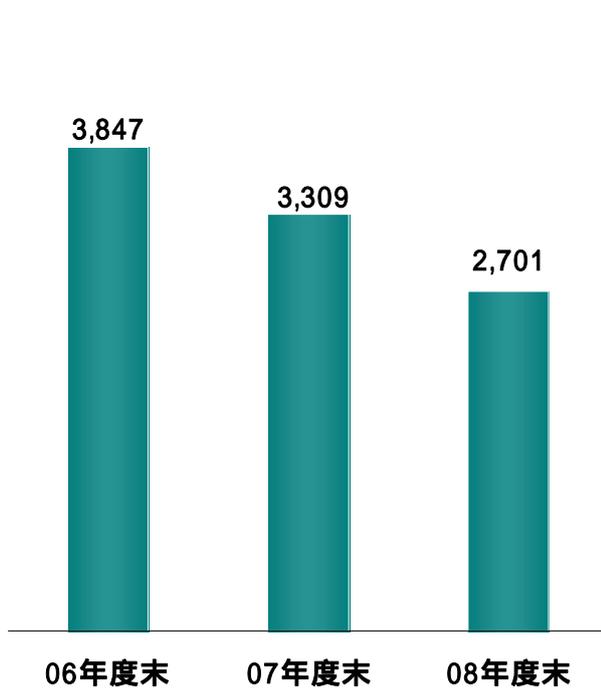


キャッシュフロー		07年度	08年度
当期純利益		1,044	105
減価償却費		2,268	2,126
運転資本増減額		-333	471
未払法人税等他負債の増減		-520	-591
法人税等調整額		88	-300
その他		434	284
営業活動によるCF		2,981	2,095
設備投資		-1,661	-1,559
事業買収		-990	-66
有価証券・投資有価証券等の売却・購入		943	351
その他		-889	-254
投資活動によるCF		-2,597	-1,528
フリーキャッシュフロー		384	567

■ 現金及び現金同等物

■ 有利子負債

(単位:億円)

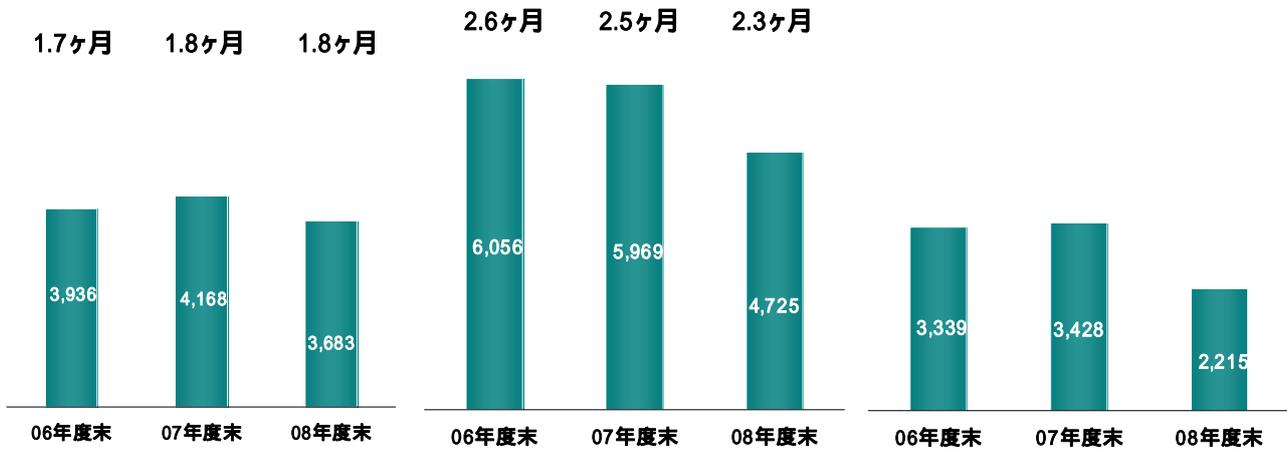


■ 棚卸資産

■ 受取債権

■ 支払債務

(単位: 億円)
(保有月数)



■ 富山化学工業(株)新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域	開発段階					剤形
			非臨床試験	PI	P II	P III	申請	
T-3262 細粒	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					経口*
T-614	抗リウマチ剤	日本	[進捗バー]					経口
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					注射**
		米国	[進捗バー]					経口/注射
		欧州	[進捗バー]					
T-3762	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					注射***
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国	[進捗バー]					経口
T-5224	抗リウマチ剤	日本	[進捗バー]					経口
		海外	[進捗バー]					
T-705	抗ウイルス剤	日本	[進捗バー]					経口
		米国	[進捗バー]					
T-1106	抗ウイルス剤	日本	[進捗バー]					経口
T-2307	抗真菌剤	日本	[進捗バー]					注射

* 錠剤は「オゼックス錠」として発売

** 経口剤は「ジェニナック錠」として発売

*** 発売中の「パシル点滴静注液」の用量追加

前回(2009年1月30日)公表時からの変更点: T-614 申請から再申請準備中に変更(2011年度申請予定)

T-5224 (R7277) ロシュとのライセンス契約解消に伴い、海外開発番号削除

■ 為替、人員、株主構成

● 為替

(単位:円)

	2007年度					2008年度					2009年度
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q		(予)
米ドル	121	118	113	106	115	104	108	97	94	101	95
ユーロ	162	162	164	159	162	163	162	128	124	145	125

* 為替感応度(年間)(対営業利益) US \$ 9億円 1-Q 7億円

● 人員

	2008.3末	2008.6末	2008.9末	2008.12末	2009.3末
連結	78,321	78,765	78,228	78,203	76,252

● 株主構成



わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>